



由布市

議会だより

No.53

2019年2月号

由布市新春互礼会



昨年、第20回日本太鼓ジュニアコンクールで全国優勝した3代目源流少年隊

CONTENTS

● 平成30年第4回定例会 概要	1
● 平成30年第4回定例会 議案質疑	2
● 常任委員会報告	3~4
● 教育民生常任委員会視察研修報告	5
● 産業建設常任委員会視察研修報告	6
● 一般質問「市政を問う」	7~14
● 由布大分環境衛生組合議会報告	裏表紙
● 請願・陳情の結果・賛否一覧表	裏表紙

平成30年第4回定例会概要

平成30年第4回定例会が12月5日に開会し、12月18日までの14日間開催されました。
今定例会では請願5件（取り下げ1件）、陳情4件が提出され、報告4件、承認1件、議案42件が上程されました。

5億9,059万8千円の追加補正予算を可決

今定例会では補正額5億9,059万8千円を追加し、一般会計総額185億3,136万3千円となる予算が可決されました。

主な内容は、湯布院複合施設整備事業のほか、小学校・幼稚園の空調（エアコン）の未設置個所に対する設置工事費や3地域の道路整備事業費の増額などです。その他の主な補正予算の内容、及び特別会計等の補正予算額については下記をご覧ください。

可決された 特別会計補正予算

国民健康保険特別会計	321万1千円増額
介護保険特別会計	1,044万円増額
簡易水道事業特別会計	765万7千円増額
農業集落排水事業特別会計	5万7千円増額
健康温泉館事業特別会計	201万円増額
水道事業会計	86万7千円増額

補正予算の主な事業

- ◎湯布院庁舎解体工事監理業務、工事請負費
- ◎洪水ハザードマップ作成業務委託費
- ◎空調（エアコン）設置工事費
小学校3校（石城、川西、塚原）
幼稚園2園（由布院、石城）
- ◎由布川小学校の電動階段昇降車の購入費
- ◎湯布院B & G海洋センタープールの屋根の改修及び鉄骨の塗装に係る工事費
- ◎ジビエ利用拡大モデル整備事業補助金
- ◎3地域の道路維持に係る整備事業費

新規と期間満了により指定管理者として指定されました

- ・由布市挾間高齢者等就業支援センター（公益社団法人 由布市シルバー人材センター）
- ・由布市城ヶ原農村公園（由布市庄内町観光協会）
- ・由布市庄内農産加工センター（株式会社由布ポタジェ）
- ・独自住宅、由布市市営特定公共賃貸住宅、由布市市営雇用促進住宅（大分県住宅供給公社）

由布市と7市町施設の相互利用について

今定例会では、他市町と施設（公民館、スポーツ施設等）を相互利用するための議案が可決されました。

対象の市町は大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、日出町です。

議案質疑

和解及び損害賠償の額を定めることについて

Q 市道はどのような管理、点検をしているのか

A (建設課長) 市民や職員、ごみ収集業者とか、アプリを利用した異常個所等の目視による発見、通報時に対応している。

由布市特別会計条例の一部改正について

Q クアージュゆふいんを、今後は市の直営でいくのか、指定管理等を視野に入れているのか

A (健康増進課長) 今後の運営について、現在のところ市の直営で運営したいと考えている。

由布市城ヶ原農村公園の指定管理者の指定について

Q 公募した理由は

A (商工観光課長) 利用者にさらなるサービスの向上につなげるため、担当課で協議した結果、指定管理者選定委員会に選定をお願いした。

由布市庄内農産加工センターの指定管理者の指定について

Q 公募していないが、どういった理由か

A (総務課長) 原則は公募ですが、公募によらない候補者の選定ができる条項がある。

- 1 地域密着型施設で地域住民等により構成される団体を指定するとき
- 2 公の施設を効果的かつ効率的に活用するために、地域の活力を積極的に活用した管理によって事業効果が期待できる場合
- 3 公募を行わないことについて合理的な理由がある場合に市長が認める。

前記のいずれかに該当する場合には、公募によらない選定ができることとなっており、今回は2に該当するため公募によらない指定管理をしている。



由布市庄内農産加工センター

独自住宅、由布市市営特定公共賃貸住宅及び由布市市営雇用促進住宅並びにその共同施設の指定管理者の指定について

Q 今後、範囲を広げることは考えているか

A (建設課長) 今後、管理代行による業務委託をする方針。

Q 由布市として指定管理をする上で、どのような体制で取り組むのか

A (建設課長) 本庁舎に由布市市営住宅管理センターを設置し、指定管理者に管理してもらうようにしている。

大分市(他6市町)の公の施設を由布市の住民の利用に供させることに関する協議について

Q 8市町公共154施設の利用料金については

A (総合政策課長) 施設を設置している自治体の条例、規則等によるところとし、市外利用者の方がそれを利用する場合には市外利用者の料金となっている。

※154施設は、主に各市町の社会教育施設(公民館等)やスポーツ施設(グラウンド等)です。

例：大分市ではホルトホール他、別府市では実相寺多目的グラウンド他

平成30年度由布市一般会計補正予算(第4号)

Q 特産品ブランド化推進事業の委託料332万8千円減額の理由は

A (市長) この事業は3段階あり、1、2段階では経費がかからないが、実際に経費がかかるのは3段階だが、年度中に完了できない見込みとなつたので一旦取下げ、次年度に補助金の申請をし、次年度完成するように組立直す。

Q 雨水対策事業4カ所383万6千円の場所は

A (挾間振興局長兼挾間地域整備課長) 雨水対策事業は挾間町の古野2カ所、上市1カ所、鶴田1カ所の計4カ所。

Q 工事費3,000万円、各振興局管内ごとに1,000万円、施工場所、施工範囲は決まっているか

A (建設課長) 挾間管内12路線、庄内管内11路線、湯布院管内4路線、各1,000万円の追加工事。

Q ハザードマップ作成委託料について

A 洪水ハザードマップの作成委託業務であり、地震関連のものは全く含まれていない。

常任委員会報告

総務常任委員会

議案73号 和解及び損害賠償の額を求めらるるについて

道路の陥没による自動車の損傷に対する和解及び損害賠償額について議会の決議を求めらるるもの。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案74号 由布市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について

人事院勧告に伴い、市議会議員の期末手当の支給月数の改定を行うもの。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案75号 由布市特別職の職員で常勤のものとの給与に関する条例の一部改正について

人事院勧告に伴い、特別職の職員で常勤の者の期末手当の支給月数の改定を行うもの。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案76号 由布市職員の給与に関する条例の一部改正について

人事院勧告に伴い、市職員の給与に関する条例の行政職給与表及び勤勉手当の支給月数、宿直手当等の改正を行うもの。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案93号 7市町の施設を由布市住民の利用に供させることに関する協議について

大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、日出町の公共施設を由布市民に利用させる協議を行うこと。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案100号 106号 由布市の公の施設を7市町の住民の利用に供させることに関する協議について

大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、日出町の住民に由布市の公共施設を利用させる協議を行うもの。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案108号 平成30年度一般会計補正予算(第4号)

歳入歳出予算の総額にそれぞれ5億9,059万8千円を追加し予算総額を185億3,136万3千円とするもので、歳入の主なものは災害対策環境整備事業913万7千円、湯布院複合施設整備事業1億3,120万1千円、財源として地方債が充てられる。

委員会として災害対策環境整備のハザードマップの作成について総合的なマップ作成について検討をする事、また湯布院複合施設整備事業では市民対応についての申し入れを行った。

全員一致で原案可決すべきと決定

教育民生常任委員会

議案第77号 由布市特別会計条例の一部改正について

由布市健康温泉館事業特別会計を廃止し、一般会計へ編入することに伴い必要な改正を行うもの。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案第79号 由布市挾間高齢者等就業支援センターの指定管理者の指定について

由布市挾間高齢者等就業支援センターの指定管理期間が、平成31年3月末に終了することに伴い、引き続き「由布市シルバー人材センター」を指定管理者とするもの。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案第108号 平成30年度由布市一般会計補正予算(第4号)

委員会に関する主な歳出は、事務局費として児童・生徒用のイス350万6千円。由布川小学校の電動階段昇降車の購入費178万2千円。学校建設費として小学校の空調(エアコン)設置工事費5,185万7千円。幼稚園建設費として空調(エアコン)設置工事費944万7千円。体育施設費として湯布院B&G海洋センタープールの屋根の改修及び鉄骨の塗装に係る工事費2,102万3千円が主なもの。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案第109号 平成30年度由布市国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出予算総額に321万1千円を追加し、総額を43億1,176万円とするもの。歳入の主なものは、県補助金812万7千円。歳出の主なものは共同電算処理の委託料177万5千円とするもの。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案第110号 平成30年度由布市介護保険特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出予算総額に1,044万円を追加し、総額を44億3,610万9千円とするもの。歳入の主なものは、国庫支出金202万2千円。支払基金交付金272万9千円。歳出の主なものは、高額介護サービス負担金810万9千円とするもの。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案第113号 平成30年度由布市健康温泉館事業特別会計補正予算(第2号)

歳入歳出予算総額に201万円を追加し、総額を6,807万1千円とするもの。歳入の主なものは、研修棟使用料117万4千円の増額。歳出の主なものは、灯油の高騰による燃料費207万7千円の増額である。

全員一致で原案可決すべきと決定

産業建設常任委員会

承認第5号 専決処分承認を求める
ことについて

「平成30年度由布市一般会計補正予算
(第3号)」

台風24号による災害復旧のため専決
処分を行ったもの。

全員一致で原案承認すべきと決定

議案第80号 由布市城ヶ原農村公園の
指定管理者の指定について

由布市城ヶ原農村公園の指定管理者
に「由布市庄内町観光協会」を指定す
るもの。指定期間は平成31年4月1日
から平成35年3月31日までの予定。
賛成多数で原案可決すべきと決定

議案第81号 由布市庄内農産加工セン
ターの指定管理者の指定について

由布市庄内農産加工センターの指定
管理者に「株式会社由布ポタジェ」を指
定するもの。指定期間は平成31年4月
1日から平成35年3月31日までの予定。
委員会として、加工センターである
ため、今後の施設利用希望者に対して
は、利用しやすくするよう意見を付す。
全員一致で原案可決すべきと決定

議案第82号 独自住宅、由布市市営
特定公共賃貸住宅及び由布市市営雇用
促進住宅並びにその共同施設の指定
管理者の指定について

指定管理者に「大分県住宅供給公
社」を指定するもの。指定期間は平成
31年4月1日から平成35年3月31日ま
での予定。

今回、公営住宅以外の市営住宅10
6戸の管理委託を行い、居住者への
サービス、住宅入居率、家賃収入収納
率の向上、また年間住宅管理経費が約
400万円増額される。

委員会では、指定管理期間終了時に
は費用対効果の検証をもとめる意見が
あった。

全員一致で原案可決すべきと決定

市道認定について

・道路延長によるもの

議案第83号 市道路線（長宝中央
線）の廃止について

議案第84号 市道路線（長宝中央
線）の認定について

道路延長のために既認定区間を一旦
廃止し新たに路線の認定を行い市道と
して管理するもの。

83号、84号ともに全員一致で原案可
決すべきと決定

・請願採択されたもの

議案第85号 市道路線（小原馬米線）
議案第86号 市道路線（生田原団地西線）

・県道東山庄内線旧道移管に伴い市道
として管理するもの

議案第87号 市道路線（小狭間影戸線）
議案第88号 市道路線（上瀬口線）
議案第89号 市道路線（中瀬口線）
議案第90号 市道路線（北大津留川原線）
議案第91号 市道路線（下柚ノ木線）
議案第92号 市道路線（上影戸線）
全て全員一致で原案可決すべきと決定



議案第107号 大字・字の区域の
変更について

筒口地区土地改良事業の竣工に伴い、
由布市挾間町小野字藤畑2415から
2435の3及びこれらの区域に隣接
介在する道路、水路である市有地の全
部の大字・字を、由布市挾間町筒口字
梶屋久保に変更するもの。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案第108号 平成30年度由布市
一般会計補正予算（第4号）

特産品ブランド化推進事業ブラン
ディング業務939万6千円の減額は
今年度での終了が見込めないため。ジ
ェ利用拡大モデル整備事業費補助金
332万8千円は「合同会社ゆふいん

の郷」加工所整備補助金。道路維持事
業3,000万円は挾間・庄内・湯布
院の道路整備費。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案第111号 平成30年度由布市
簡易水道事業特別会計補正予算（第3号）

歳入歳出予算の総額にそれぞれ76
5万7千円を追加し、総額を4億7,
993万9千円とするもの。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案第112号 平成30年度由布市
農業集落排水事業特別会計補正予算
（第2号）

歳入歳出予算の総額にそれぞれ5万
7千円を追加し、総額をそれぞれ9,
430万7千円とするもの。

全員一致で原案可決すべきと決定

議案第114号 平成30年度由布市
水道事業会計補正予算（第1号）

水道事業収益に86万7千円を追加し、
総額を5億9,869万5千円に、水
道事業費用に266万5千円を追加し、
総額を6億481万5千円にするもの。
また、資本的収支では収入から1,0
00万円を減額し、総額を1億1,7
98万2千円に、支出から996万4
千円を減額し、総額を3億3,303
万9千円にするもの。

資本的収入額が支出額に対し不足す
る額2億1,505万7千円は過年度
損益勘定留保資金で補てんするもの。
全員一致で原案可決すべきと決定

常任委員会視察研修報告

教育民生常任委員会視察研修報告

委員長 加藤 幸雄

調査研修期間 平成30年11月14日～16日
研修地 新潟県燕市、長岡市

燕市 学力向上の取組について

「Jack & Betty教室」

燕市は越後平野のほぼ中心に位置し、金属洋食器（金属ハウスウエア）の生産が日本一です。交通網は上越新幹線の燕三条駅や北陸自動車道三条燕インターがあり、交通手段はとても整備されています。

学力向上については、教職員の指導力向上を目的に新潟大学とパートナーシップを組んで、教員の充実を図って



いました。生徒の学力向上には学力に課題のある生徒を伸ばす（PDCAを繰り返し）や家庭学習の習慣化等を行っています。

英語力向上では「Jack & Betty教室」を開設し、英語力向上を図っています。通常レッスンを年間25回開催し、年に1度スピーチコンテストを行い、成果の発表と海外研修の選考を行っています。また、スポーツ関係では全国大会に出場する選手を多く擁しています。



◆研修を終えて

由布市においても、各学校間や大学との連携に取り組んでいます。燕市の手法（大学教授が教員を研修することや英語力アップ教室等）を参考にしながら、学力・体力向上に取り組んで次世代を担う子供たちに夢と希望を与えたいと感じました。

長岡市「健康づくり事業におけるタニタカフェの取り組みについて」

長岡市は花火の生産や錦鯉の養殖が全国的に有名です。現在進めている施策は「次の100年に向けて」です。

その中で、新潟県中越地震の経験を活かし、本庁舎機能を「まちなか数か所」に集約配置し、アオーレ長岡を核とした、ひとの和と輪が広がる、まちなかに溶け込む市役所（大劇場風）となっています。

長岡市「多世代健康づくり事業」は健康な生活習慣を幼少から身に付け、青年期・壮年期の生活習慣病を軽減することで健康寿命を延ばすことを目的に大学・民間企業・自治体の3者が組んで、事業展開を始めています。

健康の3要素である「食事」「運動」「休養」のバランスをとるために、国の補助金を受け、タニタカフェをオープンしました。ヘルシーなカフェメニュー・健康相談コーナー等を設け、各施設で食事や運動について管理栄養士がアドバイスしながら、ポイントが



◆研修を終えて

健康立市を掲げている由布市としても負けられない内容となっています。今、行っているポイントを食の部分にも広げて、食を提供する食堂やレストランにヘルシーメニューをお願いするのも一つの方法かと思っています。健康には食事と運動と休養は欠かせないことを改めて感じました。

付くというシステムを作っています。ヘルシーメニューは市内の一般の食堂・レストランでも食することが出来るようになっております。

この結果、全国平均より少なかった1日の平均歩数も5,650歩が7,080歩に改善し、全国平均（6,265歩）を上回るようになりました。

産業建設常任委員会視察報告

委員長 鷲野 弘一

調査事件

- ◇観光まちづくり推進事業について
- ◇バイオマス産業都市構想
- ◇京丹波ブランド戦略について

調査研修期間 平成30年10月24日～26日
 研修地 京都府宮津市、京丹波町

京都府 宮津市概要

京都府の北、日本海若狭湾に面しており、市域が南北に分かれ飛び地になっている、それを結ぶのは全長3.6kmの砂嘴で形成された砂浜、日本三景「天橋立」である。



視察内容

- ◇観光まちづくり推進事業について
 - ・独自の商品づくりのため「農水商工連携会議」を強化、地元特産品の開発を推進し、産業創出に力を注いでいる。
 - ・宮津観光推進会議で広域に情報発信をし、地元の各種まちづくり団体を市がまとめ推進体制を構築。

◆研修を終えて

由布市においても山・里・川・観光を活かした経済圏を形成し、循環型社会が地域の発展につながるように官は黒子として民間にやる気を起させるよう協働の大切さを改めて感じた。



京都府 京丹波町概要

京都府中央部に位置し、古来より京都と山陰を結ぶ山陰道および綾部街道へ抜ける街道沿いにあり、現在でも町の中を京都縦貫自動車道や山陰本線、国道9号、国道27号、国道173号などが交わる交通の要所でもある。

視察内容

- ◇バイオマス産業都市構想
 - 町面積の80%が森林、平成28年バイオマス産業都市の認定を受け、地域の資源と経済が循環する仕組みを構築、間伐林のバイオマスボイラーを設置し、木質チップの有効活用に取り組んでいる。

◇京丹波ブランド戦略について

農業の担い手不足で、農産品生産量が減少する中、黒大豆・小豆・京野菜・酒造好適米など、需要に応じた作物の生産振興を行い、農家の意欲促進を図っている。

◆研修を終えて

健康を支える農産物を京都の食料庫として食文化を高め、又森林の様々な利用は由布市においても、食と農へのエネルギーの循環に関するヒントを得られたらと感じた。



一般質問

市政を問う

● 一般質問は質疑答弁を含めて一人1時間以内です。

- 坂本 光広 議員 十月月開催の異業種交流会について 等
- 吉村 益則 議員 移住定住支援について 等
- 田中 廣幸 議員 由布市における防災・減災対策について 等
- 加藤 裕三 議員 会計年度任用職員制度について 等
- 加藤 幸雄 議員 教育について 等
- 溝口 泰章 議員 由布院駅前交通体系の変更 等
- 田中真理子 議員 来年度の予算編成、今後の財政運営について 等
- 淵野けさ子 議員 行政組織検討委員会について提案 等
- 甲斐 裕一 議員 海的环境汚染について 等
- 長谷川建策 議員 湯布院観光について 等
- 鷺野 弘一 議員 解りやすい防災マップ作成について 等
- 高田 龍也 議員 由布市の防災対策について 等
- 太田洋一郎 議員 PFI法を活用しては 等
- 野上 安一 議員 由布市の子育て世代の負担軽減施策について 等

十月開催の異業種交流会について



坂本 光広 議員

Q 今回、異業種交流会を開催して、参加の皆さんの感想は、どうでしたでしょうか？その中で、企業の皆様が困っていることは何でしたでしょうか？また、その支援を市はどのように対処していかれますか？また、これからも続けていただけますか？

A (市長) 交流会に参加された方は、大変満足しておられました。企業の皆さんの意見を聞きながら、当面は、市が主体的にやっていきたいと考えています。

A (商工観光課長) どの企業さんにも、人手不足、人材確保が最大のテーマでございませう。皆さん方と情報共有しながら協議を進めて参りたいと考えております。

A (総合政策課長) 市外の方からは、住むところが由布市内に少ないとの意見も頂きました。労働者の方の生活の環境整備を関係課と協議をして打開策等を講じているところです。

婚活イベントについて

Q 婚活イベントに対しての補助金が今年はなかったようですが、これまで開催された団体との協議はどうでしたでしょうか？また、県が行っている「おおいた出会い応援事業」等協議、活用はなされましたか？来年度は、どのようになされますか？

A (市長) 市独自の取り組みについては、より効果の高い事業の実施に向けて研究検討を参ります。補助金の周知・連絡・県の事業との連携については、今後改善したいと考えております。

その他、神楽殿等の一括した活用、由布市特産品PR協議会について質問させていただきました。



異業種交流会の様子



吉村 益則 議員

移住定住支援について

Q 市の移住定住政策の現状と今後の課題は。

A (市長) 県の主催する(おおいた暮らし塾)へ参加、移住体験ツアー、移住した方には仲介手数料やリフォーム工事費用の助成を行うなど様々な取り組みを実施しているが、空き家バンクの登録数の少ない事が課題。

A (総合政策課長) 市独自の取り組みとして移住交流ツアーを農政課や商工観光課の職員が同行し実施している。

防災について

Q 市の防災計画の現状と今年の夏の豪雨被害について。

A (市長) 県の防災計画見直しや今後の対策の検討と合わせて反映していきたい。

市道、農地、農業用施設などあわせて87件が被害に見舞われたが災害時には情報収集とパトロールを強化し早めの対応に努める。

A (建設課長) 山崎、荒木線の山崎橋は平成31年3月の完成を予定している



湯布院での放水点検

が早い完成を目指す。

森林行政について

Q 市の森林管理の進め方について。

A (市長) 市の林業を取り巻く現状が厳しい中で平成31年4月より施行される森林経営管理法と森林環境譲与税を活用して計画的に改善と維持に取り組む。



田中 廣幸 議員

由布市における防災・減災対策について

Q 水防団(消防団)の活動について

訓練や装備では、防災士と消防署・消防団員との合同訓練は実施されていますか。また災害時の活動において安全靴(救助用半長靴)の支給はできませんか。

A (市長) 防災士の方々と消防署・消防団との合同訓練は、実施していないが、地域の防災リーダーである防災士の方々には、自治区防災訓練を計画・実施して頂くよう、望む。

現在方面隊単位でゴム長靴と半長靴があり活動全般から見ると安全靴が望ましいが、切り替える時期などを検討している。

Q 消防団員の定数・人員は足りているか。

A (市長) 定数805名に対し実員は769名で定数には達していないが市民の安心・安全に努めている。

Q 今後予測される土砂災害危険地帯を小型無人機(ドローン)による空撮は行っているか。

A (市長) 土砂災害防止法に基づく危

険箇所は774箇所あるが現在、空撮は行っていない。

「陣屋の村」の今後の活用について

Q 挾間町民にとっては町づくりの拠点であった「陣屋の村」の再開に向け協議を行っているか。高長谷山は地元住民により山頂までの林道も整備されている。

A (市長) 指定管理者制度・目的外使用・売却など色々な方向の検討を行っている。活用方法によって発生する経費等を試算している。

子育て支援について

Q 今後、挾間町に保育園が開設されるが待機児童の解消はできるのか。また現在手ぎまになっている児童クラブの増築は計画されているか。入所希望者も多数ある。

A (市長) 現在特定の保育所を希望している等の理由により、入所できない児童は70人ほどいるが減少すると考える。また児童クラブの新たな開設や施設整備、改修など、具体的な計画には至っていないが公共施設等の利用など、放課後の居場所確保に向け検討している。

市民の、心安らぐ空間として陣屋の村の活用を!



加藤 裕三 議員

会計年度任用職員制度について

Q 2017年の5月に成立した地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律によって、従来の臨時・非常勤等の職員に関する制度運用が大きく変わると思いますが。臨時・非常勤職員は、市民サービスの提供に欠かすことができない存在になっていると考えられます。改正法が施行される2020年度に向けた市の対応は。

A (市長) 平成32年4月から、臨時・嘱託職員という名称が会計年度任用職員という名称に変わり、1週間当たりの通常の勤務時間が、常勤職員と同じフルタイムの会計年度任用職員、短いパートタイムのものを短いパートタイムの会計年度任用職員と呼ぶようになる。地方公共団体によって任用、勤務条件に関する取り扱いを統一することによって、適切な運用を確保するもの。現在の臨時・嘱託職員は230名。32年度4月以降はほぼ全員が移行される予定。今後のスケジュールは31年度の雇用希望ヒアリングの調査結果をもとに、給料や手当、勤務時間、休暇及び社会保険等の適用について、県や他の自治体と情報交換を行いな

がら、具体的な制度設計を行っていく予定。その制度設計に基づく関係条例の整備は、31年9月議会に上程予定。制度導入による財源は、ほぼ一般財源で賄っている状況。増加する財源は、一般財源を充てて対応していくしかないと考えている。

水道法改正について

Q 由布市での今後の水道事業に対しての考えは

A (市長) 水道法の一部を改正する法律の趣旨は、人口減少に伴う水の需要の減少、水道施設の老朽化、深刻化する人材不足等の水道の直面する課題に対して、水道の基盤の強化を図るため、所要の措置を講ずることとされている。今後、法律の施行を受け、適切に対応していかなければと考えている。老朽化に伴う改修計画や事業費について、現在策定を進めている由布市新水道ビジョン、由布市水道事業経営戦略、由布市水道事業アセットマネジメント等の計画の中で十分精査を行い、事業費等の把握を行う中で、将来推計、改修計画を示していきたい。合併後、完全に統一がされていない、簡水と上水も別々にある状況で、それから解決していきたい。老朽化が進んでいる施設は、計画的に改修を進めていかないといけないと思う。また、水は市民の生活にとって大変重要な問題ですので、行政が責任を持って、対処すべきだと思っている。



加藤 幸雄 議員

教育について

Q 4月に行われた全国学力テストの結果を振り返って。

A (教育長) 全国学力テストの結果は、小学校も中学校もほぼ全国平均の結果です。

Q 学力をどの程度まで上げたいと考えていますか。

A (教育長) 現在の目標は全国の平均値を上回ること。特に低学力層の児童生徒を減少させることを目標としております。子供たちには知・徳・体バランスの取れた教育の取組みを進めています。

Q 生徒の登下校について、平成29年度の通学路は概ね安全とありますが、通学路の安全はどう判断していますか。

A (教育長) PTA等の意見を参考に国・県・警察と総合的に通学路が安全となるよう取組みを進めております。通学路は少しですが、改善をされております。

介護保険料について

Q 県下一番高い介護保険料の改定を

考えていますか。

A (市長) 介護保険料の改定は平成30年度から3年間で期間として、第7期介護保険事業を策定しました。期間内での保険料の変更は基本的には出来ない制度となっております。

Q 低年金生活者の気持ちを察していますか。

A (市長) 介護保険料率は、低所得者の方への配慮から所得区分10段階にしています。年金から介護保険料・後期高齢者保険料も天引きされ、負担に感じることは承知しております。

ふるさと納税について

Q 現状はいかがですか。

A (市長) ふるさと納税は返礼品ライオンアップの充実や、宿泊券等の体験型返礼品の拡充などにより、昨年度の2倍以上の約1億5千万円をいただいております。

これからも、ふるさと納税返礼品の充実を図り、多くの方に納税していただきたいと思っております。





溝口 泰章 議員

由布院駅前交通体系の変更

Q 事業内容の説明会と実施通達日が重なるがなぜか。

A (市長) 道路改良工事、電柱移設に不測の日数を要し完成が遅れ、事務手続きから変更日が12月10日となった。説明会は意見拝聴を念頭に行った。

Q (商工観光課長) たまたま同時期となった。駅前広場と駅前線はまだ未発注であり、実施に合わせて今後また検討していきたい。

Q 観光面での客や車の動線に焦点が当てられており、住民の生活への視点が欠けているのでは

A (商工観光課長) 車と人がうまく折り合う空間づくりで分離誘導型の計画とした。今後も実施の中でご意見を伺い、再度計画に移行していきたい。

Q 公民館の跡地、駅の北西側JRの駐車場、を活用した広い範囲の交通体系を考える必要があるのではないか。

A (商工観光課長) 非公式な内部協議で総合政策課、湯布院振興局、商工観光課で検討を始めているところです。

由布岳整備にボランティア活動を続ける尾畠さんに感謝状贈呈を

A (市長) 尾畠さんには感謝の気持ちでいっぱいだが由布市単独での感謝状贈呈は考えていない。

Q 登山道の整備に協力をするという形で尾畠さんへの協力体制を組織化してはどうか。

A (市長) 支援等に関しては状況等充分調査したうえで検討していきたい。

塚原児童クラブの早期再開を

Q 平成20年から6年間にわたって不正支出による事案で塚原児童クラブは混乱し、その收拾経緯にも疑問と混乱が生じた。関係者の中にはまだ収束感が共有されていないのが現実だ。

A (市長) 一連の対応は終了していると考えている。児童クラブの具体的な再開要望は受けていないが申し入れがあれば保護者の方々と議論を深めていきたい。

一校一クラブが望ましいとされている放課後児童クラブは子育て世代のライフスタイルに不可欠な存在だ。家庭によっては収入に直結する問題となる。この事案の処理過程をはっきりさせた後、市として指導と支援の手を差し伸べ、早急に塚原児童クラブを再開するよう強く求める。



田中 真理子 議員

来年度の予算編成、今後の財政運営について

Q 財政調整基金の目標は。現在25億円、32年度までの目標を。

A (市長) 保有額33億円を維持すると掲げている。現行の基金の状況を踏まえ、実施計画を見直す中で標準財政規模の25%以上を保有することを目標としていきたい。

Q 増大する自然災害への財源確保の検討は。

A (市長) 財政調整基金そのものも、有事等の災害対応の基金。このことを念頭に確実に確保すべきものとして捉えている。

Q 新たな財源検討委員会の今後のスケジュールは。

A (市長) これまで、2回開催し今後4回開催する予定。

Q 自主財源の確保への検討は。

A (財政課長) 新たな財源確保検討委員会等を立ち上げる中で、今までと同様に市税の徴収率の向上、歳出の抑制と皆さんと協議しながら、人件費も含め縮減に努め、財政管理、適正な市政運営に努めていきたいと考えている。

Q 新たな財源の検討を入湯税に特化するのではなく、どういった財源を検討すれば良いのか、ワーキンググループにしてあらゆる面から協議してみたい。

A (副市長) 財源を考える場合に、今回の考え方として、事業、行政需要といったものを見ながら、それに合う財源をヒットさせていくというふうなことがいいんじゃないだろうか。それで市の重要な観光事業部門で協議をスタートした。

気になる児童の生活環境について

Q 児童生徒の問題行動、不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果による市の状況は。

A (教育長) いじめ認知件数は小学校224件、中学校51件。対策として、各校に教育相談リーダーを、他にスクールカウンセラー、ソーシャルワーカー、臨床心理士、また未然防止対策としてQ.U調査を実施し、早めの対応をしている。





渕野 けさ子 議員

行政組織検討委員会について
提案

Q 本庁舎方式に移行して2年が経過、地域振興局業務に関する本課との間で事務分担や人員等に関わる認識に差があると感じているが？

A (市長) 本課を本庁舎に集約し業務を行う中で、組織上、配置上で問題点や課題も起きている。職員による行政組織検討委員会を設置し、見直し・検討を進めている。平成32年4月を目途に見直して実施していきたい。

Q 子ども映画祭は湯布院のみ実施だが、庄内、挾間にも出前映画をしていただきたい。

A (市長) 今後、各公民館祭り等の中で映画教育として行うことを検討したい。

高齢者の肺炎球菌について

Q 平成31年以降は、肺炎球菌ワクチンの定期接種制度の対象者が65歳のみ外される。これまで一度も制度を利用されなかった市民の方のための救済措

置を設けていただきたい。

A (健康増進課長) 由布市地域保健委員会の予防接種感染症小委員会で高齢者肺炎球菌の予防接種の検討を行なっている。肺炎予防の効果も期待できることから、過去に一度も制度を受けていない方に対して何らかの行政措置が必要ではないかとの意見を頂いた。

防災対策について

Q 有識者会議中間報告で中央構造線が動いた場合、由布市震度7と表された。高齢者も見えて解りやすい防災ブックの作成を要望します。

A (市長) 平成21年9月に防災の手引きを作成したが、この手引きを高齢者にも解り易く工夫を凝らして来年度改定したい。

Q 液体ミルクを災害に備えて備蓄を要望します。

A (市長) 市場調査、他市の備蓄状況等、十分勘案して検討したい。

Q ため池についての対策状況は？また台帳にのっていないため池対策は？

A (市長) 由布市のため池は55か所(挾間31カ所、庄内23か所、湯布院1カ所)。全てのため池の防災連絡体制を作成していますので、この連絡体制を活用することで減災に努めます。



甲斐 裕一 議員

海の環境汚染について

Q 世界的な海洋プラスチック問題への解決に向けての取り組みがされようとしているが、その中で1番の原因として上げられているのが、「不法投棄とポイ捨て」であると言われる。由布市として、どう捉え、その解決策はどのように考えているのか。

A (市長) この問題については、漂流や標識ゴミにより、生態系を含めて海洋環境の悪化が進んでいることは認識している。市としては、レジ袋の使用自粛の呼びかけ、プラスチックごみの削減への取り組みを進めており、また市役所内では「由布市環境基本計画推進内協議会」を設置し協議を進めているところである。

Q ポイ捨てが後を絶たないが、それを防ぐ対策は考えられないか。

A (環境課長) ポイ捨ての多い地域で、区間を定めたポイ捨て防止を強化する条例等の設置をする方向で進めている。

Q ドローンを寄贈(由布ライオンズクラブより)されたが、これを使用し

A (環境課長) 必要と考えており、実

施に向けて関係課と協議していく。

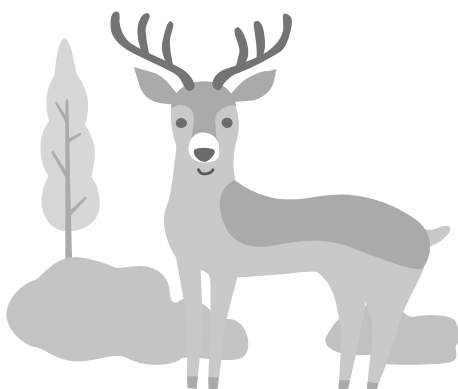
有害鳥獣について

Q 捕獲した獲物のジビエ化について、今回、補正予算に上げられているがその内容はどのようなものなのか。

A (市長) 昨年、大分県・市町・猟友会・処理加工施設・流通卸売業者等で構成された「大分ジビエ振興協議会」が設立された。今回、由布市としても協議会と連携して、ジビエの利活用の推進、またブランド化に取り組んでいきたい。

Q 捕獲者について、ワナの免許取得時の講習料の助成がなされているが、銃の免許取得講習料の助成は出来ないか。

A (農政課総括課長補佐) 検討していきたい。





長谷川 建策 議員

湯布院観光について

Q 観光公害について、観光客、外国人観光客との間で観光迷惑の事例を市はどのように認識しているのか。又、対応は。

A (市長) 観光公害とは、観光がもたらす様々な弊害の事。交通渋滞や民地等への無断立ち入り、撮影等のプライバシー侵害の苦情の連絡が数件ある。外国人の観光マナーについては、地域の方々と湯布院交番署員らが参画されている検討会で協議、外国人向け4ヶ国語まち歩きリーフレットを作成中。

Q 新たな税の導入で、財源検討委員会を設置したと聞かすが、構成員について説明を。

A (市長) 新たな財源検討委員会につきましては、利害関係がなく適切に意見ができる方、観光現場に精通し、観光全般に詳しい高い知見を持ち、具体的に議論ができる方、他団体の例も参考に、大学関係、商工関係、まちづくり関係、観光協会・旅館組合関係の分野から13名を選出いたしました。検討委員会では、新財源の負担のあり方を含め、財源確保の手法について協議を行っている。

子育て環境について

Q 子育て環境の整備実態について、庄内町に病児・病後児保育施設が完成したが、実態と利用の内容は。同じく、狭間にできた子どもルームの実態と利用。高校生までの市の医療負担がスタートしたが、どのくらいの利用状況か。

A (市長) 本年4月に庄内町に開設された病児・病後児保育施設「キッズケアクラブいまじん」は、月曜日から金曜日まで、小学生までの児童が病気や病気回復期に利用することができ、当面の利用定員は2名。10月末までの実績は、127日間の開所利用延べ人数は66名、既に事業委託している大分市の施設と合わせて156名の児童が利用をしている。子どもルームはさまについては、市内4カ所ある地域子育て拠点施設の一つとして運営され、子育て親子の交流の場の提供や子育て等に関する相談、援助、あるいは子育て支援に関する講習の実施、今年度より一時預かりの業務も開始した。9月末までの実績では、124日の開所利用で1,087組、1日平均9組ほどの親子が利用し、前年度を上回る利用状況となっている。

高校生等医療費助成制度は今年度より開始した制度であり、6カ月間の実績は、当初見込のとおりではほぼ推移し、月平均106万円程度の支出額となっている。
※その他に、由布院駅前の一方通行事情、日出生台演習場での日米共同訓練について、質問した。



鷲野 弘一 議員

解りやすい防災マップ作成について

Q 他市町村では、マップ1冊で風水害、土砂災害、火山噴火、地震災害への備え、避難所、防災マップを解りやすい冊子として発行しているが、由布市の計画について。

A (市長) 現在、洪水ハザードマップ、土砂災害周知避難マップ、災害想定区域図を作成しておりますが、1冊にまとめたものはありません。防災の手引きを改定予定ですが防災マップも入れられないか現在検討しております。
A (防災安全課長) マップの先進地事例も存じております。そういうものを取り入れながら検討していきたいと思っております。

「おくやみコーナー」新設について

Q 家族の死亡に伴う市役所での主な手続きの解りやすいシステムと庁舎案内の充実について（解りやすい手続き案内とたらいまわしゼロの実施）

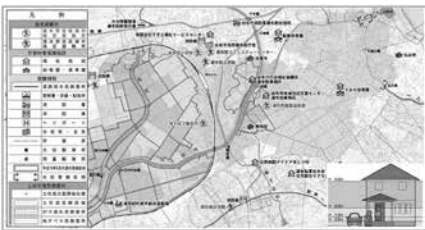
A (市長) 市役所での死亡に伴う手続

きは市民課窓口での死亡届、それ以外に関連する手続きを関連する担当課ごとの窓口で行っていますが、手続きに応じて届書も多数あることから、現在職員による行政組織検討委員会を設置して組織の見直しを行っています。この委員会の中で、市民の負担軽減につながるような窓口対応についても現在、議論、研究しているところです。

学校エアコンの進捗状況について

Q 学習用パソコンの導入よりも、エアコン未設置の解消を訴えてきましたが、国の制度が出来たことでのようになつたか。

A (教育長) 未設置学校は、石城、川西、塚原小学校の3校、幼稚園は、由布院、石城幼稚園の2園です。災害ともいえる今年の猛暑を受け、児童生徒に健康被害を及ぼさないよう熱中症対策として各学校に冷房設置を目的とする。国の冷房施設対応臨時特例交付金制度を利用して整備したいと考えています。





高田 龍也 議員

由布市の防災対策について

Q 前回議会において河川の堆積土砂等は、河川管理者である大分県に報告し、対応を願うとの答弁だったが、その後の経過を伺う。

A (市長) 管理者である大分県に要望し、現在宮川と大分川の合流部付近の河床掘削を行っており、これを優先的に検討しているとの回答です。また、川西橋下流から湯平大橋付近までの自生している樹木については河積の阻害の要因にもなることから、今後検討していくとの回答をいただいた。

Q 由布市における国、県、市指定文化財の防災対策、災害対応、災害処理の状況を伺う。

A (教育長) 文化財を災害から守り後世に残すために国、県、市だけではなく地域住民、所有者とも連携し対策を講ずる必要があると考えており、災害が起こった場合は、被害状況を調査し県文化課へ報告、県、国の担当調査官と市担当者、所有者で被害状況の確認を行い、補助事業となるか協議し確定後、負担割合で復旧事業を実施することとなっております。

Q 熊本大分地震のアンケート集約後の関係各課の協議状況、由布市民への報告状況を伺う。

A (防災安全課長) 関係各課との協議については、既に対応済みでしたので、協議は行っていません。また、アンケート調査結果は市民へ周知することは考えていません。

由布市の農政事業について

Q ふるさと納税の返礼品目の登録状況と返礼品状況を伺う。

A (市長) 登録状況については、37事業者から78品目の登録をいただいております。

A (総合政策課長) 11月末現在で、返礼品額は1億5,205万5,000円となっております。

由布市の教育・子育てについて

Q 次年度の放課後児童クラブの入会人数、収容人数は把握されていますか。

A (子育て支援課長) 湯布院には3つのクラブがあり、3つのクラブ合わせて120名の利用定員です。次年度は現時点で17名程度が定員を上回ることをお聞きしていますので、来年度の受入れを確定する時期までは、確保に取組んでいきたい。



太田 洋一郎 議員

PFI法を活用しては

Q 改正されたPFI法を活用して事業実施を考えているのか。

※PFI法って？
PFIとは公共事業を実施するための手法です。

民間の資金と経営能力・技術(ノウハウ)を活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法です。あくまで地方公共団体が発注者となり、公共事業として行うものでありJRやNTTのような民営化とは違います。大分県では昨年、県職員宿舎の建設でPFIが活用された。

A (市長) PFI事業としての適合性が高く、財政負担の軽減が図られ、公共サービスの向上に資すると考えられる公共施設については、取り組みを研究したい。

陣屋の村の今後は

Q 陣屋の村の今後の活用をどう考えているのか

A (市長) 現状のまま指定管理者の公募で継続するか、目的外使用に変更、売却する等、今後の維持管理経費や補助金返還を考慮しながら、どの活用方法が良いのか検討している。

Q 陣屋の村は挾間地域の財産・宝だと考える。売却などではなく、用途変更し、活用してはどうか。大分ICや湯布院ICからのアクセスも良いので、例えば全国で科学館が無いのは大分県と沖縄県と聞く。県と協議して、先ほど述べたPFIを活用し、科学館を誘致しては。

A (総務課長) 陣屋の村では広さが足りないのではと考えるが、日本で大分に無いのであれば、良い考えだと思ふ。
Q 夢の持てる計画として、是非とも検討してもらいたい。

その他、死亡届提出時のワンストップ案内サービスの設置や新たな財源の方向性について質問しました。





野上 安一 議員

由布市の子育て世代の負担軽減施策について

Q 遠距離高校生の列車通学世帯の支援を考えないか。朝5時からの列車遠距離通学に頑張る生徒と保護者世帯の負担軽減施策を。

A (教育長) 現在、由布市唯一の連携型中高一貫校の振興策としてJR定期乗車券の購入補助をしている所です。由布市外への通学高校生への支援は非常に厳しいと考えている。

Q 市立幼稚園のありかた・幼保連携型の認定子ども園の推進も考えないか。平成21年に公立保育所を民間に譲渡したその後の成果は。

A (市長) 民間譲渡した(建物)、2つの施設とも大変大きな児童福祉の向上に貢献して頂いている。運営や施設整備等についても、市の負担が軽減され財政効果が発揮されている。

Q 市内7つの市立幼稚園の将来のありかたについて、幼保連携の認定子ども園化も考えるべきではないか。

A (教育長) 少子化が進む中で、一定の基準や目標を持って取り組んでいる。A (子育て支援課長) 由布市内の施設

では、保育士の人材確保に苦慮している状況だが、今後は認定子ども園の移行が望ましいと考えている。

由布市の行政の新財源確保について・新財源確保検討委員会の協議の進捗は

Q 新しい由布市の財源確保の進捗は、財源確保のための市役所の取り組み、遊休地の処分や新駐車場設置、新税金確保もだが、協力金などの議論はしているのか。

A (市長) 新財源の検討は、入湯税に限らず、協力金や別荘税も含め協議している。

由布院駅前の一方通行化等…湯布院観光地域の交通行政について

Q 由布院駅前の一方通行について、市民の皆さんから、あまりにも強引な手法ではないかとの意見が多く寄せられました。観光の視点・市民の暮らしの視点、もうちょっと市民合意が必要ではなかったのか。

A (市長) 由布院駅前の慢性的な交通渋滞の緩和・人と車の分離を誘導し、地元の方や観光客が安全で利用しやすい折り合い空間を考え整備を考えている。

A (商工観光課長) 今後も関係機関や市民の皆さんに丁寧な説明をしていく。

訃報

去る平成31年1月22日、野上安一議員がご逝去されました。由布市議会一同、心よりお悔み申し上げ、哀悼の意を捧げます。



故・野上 安一 議員 (享年68歳)

出身 湯布院町川上
 履歴 平成25年10月 由布市議会議員
 平成29年10月 由布市議会議員(二期)
 日出生台演習場対策特別委員会委員長

■平成30年第4回定例会で審査した請願・陳情の結果

区分	件名	代表提出者	結果
請願	12 由布市事業所提案型介護予防教室（出張型）継続に関する請願書	蛇口自治委員 吉廣 順一朗 外2名	趣旨採択
	14 市道編入に関する請願について	小原自治委員 末松 龍彦	継続審査
	15 市道編入に関する請願について	小原自治委員 末松 龍彦	継続審査
	16 市道編入に関する請願について	小原自治委員 末松 龍彦	継続審査
陳情	(H29) 8 私達は、市に対して、本件土地の売買契約書中の契約解除条項を誠実に履行することを求めます。	共進会跡地のメガソーラー建設に反対する会 代表 江藤 和子	継続審査
	7 公的年金制度の改善に関する陳情	全日本年金者組合由布支部 支部長 佐藤 文人	継続審査
	9 由布市城ヶ原農村公園指定管理者に関する陳情書について	合同会社Q-dai企画 代表社員 幸野 光義 外1名	不採択
	10 議員の兼業・請負禁止規定違反による佐藤人己議員の失職決議を求める	Yufu市民オンブズマン 共同代表 気賀澤 忠夫 外1名	不採択
	11 暮らしの移動の困りごとに早急に対応するため、地域ごとの当事者・市民による改善案を検討する場を求めます。	谷 千鶴	不採択
	12 “ほぼ乗客ゼロ”の朴木スクールコースを、緊急に見直す提案	谷 千鶴	不採択

賛否一覧表

[平成30年第4回定例会]

平成30年第4回定例会では全42議案、全員賛成で可決されました。

由布大分環境衛生組合議会報告

会議名/平成30年第2回由布大分環境衛生組合議会定例会 日 時/平成30年11月20日 午前10時

◆事件及び審議結果

●認定第1号 平成29年度由布大分環境衛生組合歳入歳出決算の認定について

平成29年度歳入歳出決算額は、収入済額636,266,133円。支出済額587,922,962円で差引残額48,343,171円を翌年度へ繰り越すもの。

監査委員より適正に処理されている報告、及び今後の組合解散事項について、運営に支障が出ないよう万全の体制を図るよう要望された旨の報告がなされた。

●議案第3号 平成30年度由布大分環境衛生組合補正予算（第1号）

予算総額を1,069万8千円増額し、総額6億211万8千円と定めるもの。

全て全員の賛成で認定、可決

由布大分環境衛生組合議会議長 工藤 安雄

編集後記

梅の花もほころぶ今日この頃、市民皆様には、平素より議会運営に御理解を賜り厚くお礼を申し上げますとともに、本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて、本年は天皇の退位、5月に新天皇の即位、新元号の公布、9月にはラグビーワールドカップが開催され、大きな行事が予定されています。

特に、ラグビーワールドカップは大方でも5試合が行われ、大のラグビーファンの私も「ウェールズ対フィジー」のチケットが当たり、観戦に行きたいと思っております。この大会期間中、大分県にも多くのお客さんや外国人の方が来県することが予想されます。由布市の魅力を発信する良いチャンスです。皆さんと一緒にラグビーワールドカップを盛り上げましょう。

本年が市民皆様にとりまして、幸多き年になりますとともに、災害の無い年となりますようにお祈り申し上げます。

委員 平松 惠美男

議会広報編集特別委員会

委員長 加藤 幸雄	委員 加藤 裕三
副委員長 佐藤 孝昭	委員 佐藤 廣幸
委員 田中 真理子	委員 田中 幸
委員 鷲野 弘一	委員 鷲野 則
委員 平松 惠美男	委員 高田 龍也